

## STEP 2 作物成育の「見える化」と管理法の改善【トマト入門編】①

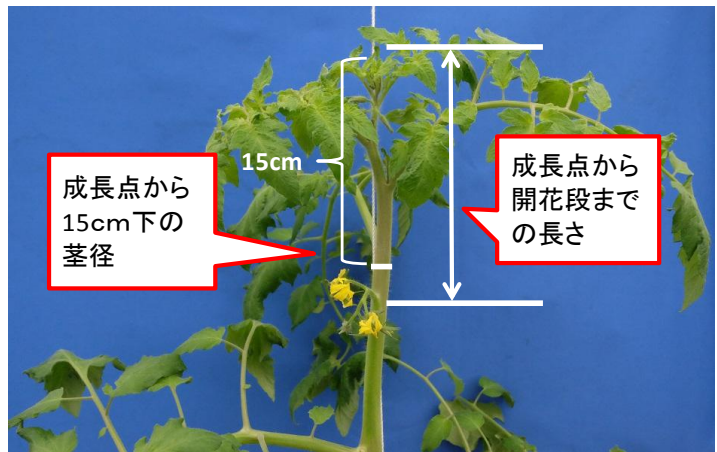
トマトの収量と品質を向上させるためには、作物の成育状況を把握し、目指す成育バランスに近づける環境管理を行うことが有効です。

環境モニタリングとともに成育調査を行って、成育のバランスを理想の状態に近づける環境管理方法を考えましょう。

### 1 成育データをとる

**成長点から15cm下の茎径**（以下茎径）と**成長点から開花段までの長さ**（以下「成長点長さ」）を週1回測ります（右図参照）。

茎径は草勢の強弱、成長点長さは栄養成長と生殖成長のバランスを表します。



新たに考案した「茎ゲージ」を使うと、簡単に茎径を計測することができます。



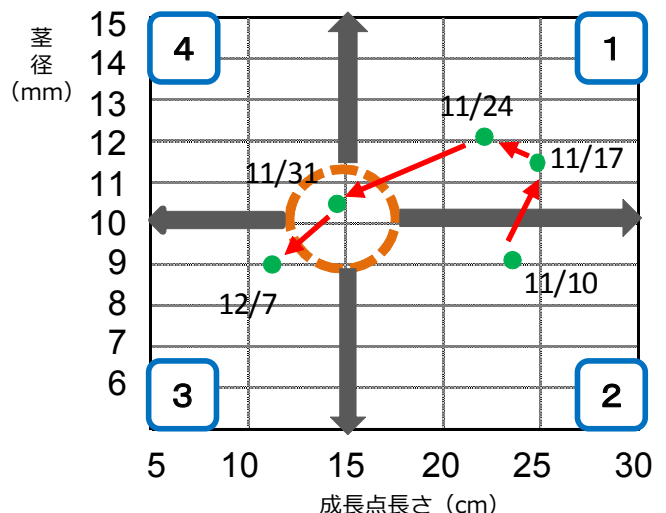
### 2 成育バランスシートに記録する

茎径を縦軸に、成長点長さを横軸にグラフを作ると、成育状況が一目で分かります。（右図）

- 茎径：太いほど草勢強い
- 成長点長さ：短いほど生殖成長

【適正値の目安】

茎径	10mm 程度
成長点長さ	15cm 程度



内にあれば適正なバランス状態、外れていたら管理の修正が必要